令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大牧小学校 ）　　学校番号　０３８

【様式】

学校教育目標	「生き生きした　活力のある子」　・よく考える子　・思いやりのある子　・じょうぶな子　・「わ」を大切にする子
目指す学校像	「児童と教職員が輝く学校」　～児童の主体的で自律的な学びを実現し、居心地の良い(Well-being)な学校～

重点目標	1　デジタル環境を活用した、児童が主体的に学ぶことができる授業の改善 2　どの子も安全・安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる体制の構築 3　コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進 4　安全・安心な学校生活のための教育環境整備 5　教職員が個々の強みを発揮し、やりがいと意欲をもって職務に専念できる職場の実現

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可能。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学校自己評価

年度目標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1 学びの質の向上に関する取組	＜現状＞ ○全国学力･学習状況調査では、市、全国平均と比べ概ね良好な結果である。 ○ICT を活用し個別に学ぶ場面を増やすことで、児童の学びに向かう力や探究する力が増している。 ＜課題＞ ○課題の解決に向けて、自分で思考することや自分の考えを表現することにやや消極的な面が見られる。 ○学習の理解度に個人差があるため、画一的な授業を改善し個に応じた指導の充実が必要である。	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実	○学校課題研究を通し、全教員が互いに研究授業を公開し、児童の主体的な学びに向けた授業改善に努める。 ○リーディング DX 協力校(文部科学省委嘱)として、大学教授等の講演を聞いたり研究校への視察に行ったりして、新たな時代にふさわしい学びの理解を深める。	○自律的な学びに向けた授業方法についての授業研究や研修会を経て、全教員が日々の授業実践のスキルを向上できたか。 ○学校評価(教職員)の項目「自律的な学び」A 評価が 37%以上になったか。(R6.36.8%)
		○カリキュラムマネジメントの充実	○地域と連携し、地域の教育資源や学習環境を活用した教育活動を実施する。 (学ぶ意味や社会とのつながりを意識) ○教職員が連携し、複数の教科等の連携を図りながら教育活動を実施する。	○カリマネデザインマップを基に組織的かつ計画的に教育活動を実施できたか。 ○学校評価(教職員)「2」A 評価が 45%以上になったか。(R6 44.7%)
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	＜現状＞ ○児童の大半は、学校に楽しく通っており、優しく素直な子が多い。 ○いじめなどのトラブルは早期に解決し、その後の見守りや見届けを確実に行えている。 ＜課題＞ ○配慮を要する児童や不登校傾向の児童に対し、きめ細かい対応を教職員がより共通理解し行えるようにする。 ○子どもの発達や心のサポートを学校と家庭が連携を密にして行えるようにする。	○多様な教育的ニーズに応じた特別支援・教育相談体制の充実	○スクールダッシュボードや心と生活のアンケート等を活用し、児童の声や悩みを受け止められるようにする。 ○教育相談日(毎月)や個人面談週間を設定し、保護者が学校や担任に相談しやすいようにする。 ○SC、SSW を活用し、関係機関等との連携を図りながら適切な支援につなげる。	○スクールダッシュボード等を活用し、児童の状況を把握し支援につなげることができたか。 ○ケース会議を月１回以上実施し、具体的な方策や役割分担について話し合い支援につなげることができたか。 ○SC、SSW を活用し、関係機関等との連携を図ることができたか。
		○児童一人ひとりのよさを伸ばす生徒指導の充実	○各学年で、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。 ○「報告・連絡・相談・見届け」を徹底し、事案発生時には、組織的に対応を行う。	○規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行うことができたか。 ○問題に対して、迅速な初期対応と保護者連携を行えたか、
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	＜現状＞ ○児童が、地域のお祭りや行事に参加することで地域住民と顔見知りになり、地域への愛着を深めている。 ○児童の登下校時に、防犯ボランティアや PTA が見守りをしてくださっているお蔭で安全安心が保たれている。 ＜課題＞ ○学校での児童の学習や生活の様子が伝わりにくく、保護者と相互理解が行いにくい。 ○児童が地域の行事に参加するだけでなく、児童が主体的に考え参画することを増やす。（成功体験を増やし、自己肯定感を高める）	○学校からの情報発信の充実	○学校だよりや学校 HP を工夫し、地域に学校の情報をわかりやすく伝えることができるようにする。 ○目的に応じ学校からの情報発信を紙ベースからデジタルに切り替える。	○学校だよりや学校 HP を工夫し、学校の教育活動の様子を地域に知らせることができたか。 ○紙媒体での配布物を減らし、電子媒体による情報発信を増やせたか。
		○学校運営協議会と SSN の一体的推進	○児童が学校運営協議会に参加し、児童の思いや願いを伝える機会を設ける。 ○SSN を年２回開催し、CS 熟議の内容を各団体で共有し実働につなげる。 ○たっぴ一畑の管理運営を地域、PTA と協働し児童の体験学習を充実させる。	○学校運営協議会に児童が参加し、児童の思いや願いを伝えることができたか。 ○SSN の各団体と連携し協働できたか。 ○たっぴ一畑の管理運営を地域、PTA と協働し児童の体験学習の充実につなげることができたか。
4 教育環境の整備に関する取組	＜現状＞ ○地域や保護者の皆様の御協力で、美しい学校環境が保たれている。(R６年度尾間木地区教育環境整備基金による樹木剪定の実施) ＜課題＞ ○開校から 44 年目となり校舎の老朽化が見られる。 ○個別に支援を要する児童に対応できる職員の人数に限りがある。	○安全・安心な学校生活のための教育環境整備	○毎月 10 日の安全点検を活用し、要修繕箇所の迅速な修繕を行う。 ○教育委員会と連携し、施設の不具合を迅速に改善する。 ○環境美化活動に地域や PTA の協力を得る ○児童の安全への意識や環境美化に取り組む主体的な態度を育てる。	○学校評価(保護者)「環境整備」で肯定的回答が 95%になったか。 ○毎月の安全点検実施から１週間以内に修繕を実施できたか。 ○関係団体の協力による環境美化活動を実施できたか。 ○児童の安全や環境への意識が高まったか。
5 教職員のキャリア形成に関する取組	＜現状＞ ○教職員が教職への使命感や情熱をもち、キャリア段階や校務分掌等に応じ、積極的に学ぼうとする姿が多く見られる。 ○教職員間の同僚性が高く、「お互いさま」の気持ちで支え合う様子が多く見られる。 ＜課題＞ ○教員の授業における ICT を活用した指導について、学年や教科等で取組の差が見られる。 ○教科指導以外の業務が増加し、業務への負担感や多忙感が教職員に見られる。	○「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	○経験を積んだ教員が授業を公開し、若手教員が気軽に参観できるようにする。 ○教育委員会に指導者を要請し、「児童の主体的な学びの伴走者」を目指した教職員研修を行う。	○若手教員が、経験を積んだ教員の授業を参観して得たことを自己の授業等にいかすことができたか。 ○ICT を活用した学習者主体の学びを実践することができたか。
		○学校業務の改善と子どもと向き合う時間の確保	○教職員のタイムマネジメントの意識を高め、週に１度の定時退勤を行う。 ○クラウド環境で教材や資料の共有を行い行事や授業等の準備時間を短縮させる。 ○ICT を活用した業務改善を行う。	○定時退勤実行への意識が強まり、教職員の心身の状態を良好に保つことができたか。 ○クラウド環境を活用した業務改善を進めることができたか。

年度評価

評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
○全教員が年間２回の公開授業を通して授業改善に取り組み、自律的な学びを促す授業スキルを高めた。 ○学校評価(教職員)の項目「自律的な学び」A 評価が 50%だった。	A	○次年度への課題 ・各教科に応じた個別最適な学びと協働的な学びの推進 ○改善策 ・各教員の実践の共有 ・学力調査等の分析に基づく授業改善
○地域と連携し、地域の教育資源や学習環境を活用した教育活動を実施できた。 ○学校評価(教職員)「2」A 評価は 53%だった	A	○次年度への課題 ・カリキュラムマネジメントに関わる推進体制の構築 ○改善策 ・カリマネデザインマップの見直し
○心と生活のアンケート等を活用し、迅速に状況を把握し、支援につなげた。 ○ケース会議を月１回以上実施し、具体的な方策を検討し、支援につなげた。 ○SC、SSW、関係機関等と連携し適切な支援につなげた。	A	○次年度への課題 ・個々の教育的課題に寄り添う包括的支援 ○改善策 ・ケース会議の専門性と実効性の向上 ・専門職や関係機関との連携支援の強化
○主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりができた。 ○事案発生時に迅速に初期対応と保護者連携を行った。	A	○次年度への課題 ・児童同士による温かな人間関係の構築 ○改善策 ・チーム学年経営の充実
○学校だよりやＨＰを通して教育活動が伝わるように内容を精査して発信した。 ○紙媒体での配布物を減らし、スクリレによる情報発信を増やした。	A	○次年度への課題 ・教育活動のより一層の情報発信 ○改善策 ・スクリレや HP を活用した情報発信の推進と内容の工夫
○学校運営協議会で児童が地域の思いや願いを伝えた。 ○SSN の各団体と連携し協働できた。 ○たっぴ一畑の管理運営を地域、PTA と協働し児童の体験学習の充実につなげた。	A	○次年度への課題 ・学校と地域の情報共有と伝達 ○改善策 ・コミュニティ・スクールの充実 ・各教科におけるたっぴ一畑の利活用の見直し
○学校評価(保護者)「環境整備」で肯定的回答が 95%だった。 ○毎月安全点検後、１週間以内に修繕を実施できた。 ○尾間木地区教育環境整備基金による樹木消毒が実施された。	A	○次年度への課題 ・老朽箇所への対応 ○改善策 ・市教委との連携 ・劣化度状況の分類と優先順位付け
○若手教員が、経験を積んだ教員の授業を参観し、自己の授業等に活かした。 ○ICT を活用した学習者主体の学びを実践することができた。	A	○次年度への課題 ・新クラウド環境にかかわる教職員のスキルの向上 ○改善策 ・ICT 教育にかかわる教職員研修の推進
○定時退勤の意識を高め、教職員の心身の状態を良好に保つことができた。 ○クラウド環境を活用した業務改善を進めることができた。	A	○次年度への課題 ・定時退勤の推進 ・組織的な業務の計画的・効率的推進 ○改善策 ・業務改善研修の実施

学校運営協議会による評価

実施日　令和８年２月１２日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等
個別最適な学びについて、教室の多様な子ども達に対しもっと個に応じた学習に変えていこうとする学校の姿勢が伝わった。全教員による公開授業の実施や地域の教育資源や学習環境の活用により自律的な学びが促進されており、大牧小らしい特色ある教育活動が推進されている。学校評価の『活字に親しませる』『体力向上』について、子どもの「進んで～」の捉え方が数値で図れないため難しいが、概ね良好な回答が多く評価できる。
学校生活の中で、教職員と子どもとのコミュニケーションやケース会議により信頼関係が醸成されており、ＳＣやＳＳＷとの連携が取れていることが評価できる。また、地域での子ども達の挨拶が定着し地域の人とのコミュニケーションがとれていることも継続的な指導の賜物だ。さらに、子どもに何かあった時、担任に限らず多くの教職員と相談できる環境づくりが大切だ。
子ども達が地域の祭りに参加することは、社会生活へのきっかけとして意味がある。参加することで顔見知りとなり、他の行事へも関わり、成長して地域を支える側になってくれれば地域にもプラスになる。その意味で、教職員が祭り等に参加することや、学校だよりやブログで家庭や地域に情報を発信していることは評価できる。また、学校評価の「教育活動が分からない」という一部の声に対しても、学校と地域の情報の共有と発信に努めてほしい。
子どもの安全な学校生活のためにも地域とともにある学校は重要だ。学校ファームが継続され体験活動も保障されている。設備老朽化が心配される中でも環境整備への保護者の肯定的回答が９５％だった点は評価できる。校庭整備や樹木剪定等に市教委への要望等お願いしたい。
教職員の仕事は大変で、定時退勤ができているのか心配だ。働き方改革の中で効率的に勤務し、心身の状態を良好に維持してほしい。若手教員が多い中で、経験を積んだ教員によるサポートやＩＣＴを活用した学習者主体の学習への実践に努めてほしい。